

教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 社会福祉学科

資格： 准教授

氏名： 野上 恵美

研究分野	研究内容のキーワード
文化人類学, 異文化社会学	在日ベトナム人, 高齢者移民, マイノリティ
学位	最終学歴
博士（学術）	神戸大学大学院国際文化学研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 2年担任業務	2024年4月1日～現在	個別面談、集団面談を通して、教育指導等を行っている。学生が文化祭に積極的に取り組めるようにサポートしている。
2. 国家試験対策	2023年5月1日2023年6月30日	公務員試験を受験する学生を対象に、SPI対策および面接指導を実施した。
3. 1年担任業務	2023年4月1日2024年3月31日	高校生活から大学生活にスムーズに移行できるように、主に初期演習を通じて学生をサポートするとともに、主体的に学ぶクラスづくりを目指した。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 国際ワークショップへの参加	2024年7月27日	立命館大学で開催された国際ワークショップ「ポストコロナ時代におけるダイバーシティと多文化社会の課題」において、2005年から関わっているNPO法人たかとりコミュニティセンターの活動について報告した。
4 その他		
1. 社会福祉士・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会修了	2021年9月17日	社会福祉士実習分野講習。受講No. 2021-036
2. 社会福祉士・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会修了	2021年8月19日	社会福祉士演習分野講習。受講No. 2021-036
3. 社会福祉士・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会修了	2021年8月6日	社会福祉士基礎分野講習。受講No2021-036

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 模擬授業講師	2024年5月24日	京都府立日吉ヶ丘高等学校にて、多文化ソーシャルワークについて模擬授業を行った。
2. 模擬授業講師	2022年12月9日	奈良県立国際高等学校において、多文化ソーシャルワークについて模擬授業を行った。
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 博士論文	単	2016年3月31日	神戸大学大学院国際文化学研究科	神戸大学大学院国際文化学研究科に博士論文「難民からマイノリティへー神戸・長田のベトナム系移住者の労働現場の民族誌ー」を提出し、博士（学術）の学位を授与された。
3 学術論文				
1. 高齢者がニッチ（居場所）を発見し棲むということーベトナム、ホーチミン市の宗教施設を事例（仮）	共	2026年9月刊行予定	文化人類学	特集論文「ディタッチメントとアタッチメントー東アジア、東南アジアの高齢者の居場所」所収予定。ベトナム・ホーチミン市の明郷（華人系）集団の祠堂の一角に暮らす高齢男性と周囲との関係性を描き出すことにより、ベトナム南部の（華人系を含む）祭祀施設とその成員の関係性などにも言及しながら、高齢者のありかたを

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2.「多文化共生」のシンボルとしての聖像：ベトナムから持ち込まれたキリスト像の例	単	2025年3月刊行予定	『宗教的なモノの現在（仮）』（国立民族学博物館共同研究成果論集『）、春風社	「ディタッチメント」の議論へと接続することを試みる。（査読あり） 在日ベトナム人が自らが信仰する宗教の拠り所としてベトナムから持ち込んだ聖像の意味が、移住社会で変遷していく過程について論じた。本文18頁。（査読あり）
3.ベトナム難民と母国とのつながりの変遷について	単	2025年刊行予定	理論と動態	特集：「インドシナ難民受け入れ50年を振り返る（仮）」に所収予定。近年、日越二国間のつながりが強化されたことにより、ベトナム難民家族と母国とのつながりが大きく変化した。この点に着目し、ベトナム難民家族の生活実態を捉え直すことを試みる。（査読あり）
4.A prospective cohort study in depression and anxiety among Vietnamese migrants in Japan during the early to mid-COVID-19 pandemic	共	2024年7月1日	Tropical Medicine and Health	COVID-19のパンデミック初期から中期において、在日ベトナム人移住者のメンタルヘルスに関する調査を行い、COVID-19のパンデミックが彼らのメンタルヘルスに影響を与えていることを明らかにした。全文8頁。掲載URL：https://doi.org/10.1186/s41182-024-00605-4(査読あり)
5.Changes of organization for Vietnamese migrants living in Japan:Case Study of group for Vietnamese in Kobe	単	2024年7月	越日友好関係50周年記念国際シンポジウム論文集	日本における在日ベトナム人集住地域にある神戸に拠点を置く自助組織に着目し、設立から現在に至るまでの活動の変遷についてまとめた。本文16頁。（海外での出版のため現物は未着。投稿受理証明書あり）
6.Loneliness and mental health issues among Vietnamese migrants in Japan: A cross-sectional study	共	2024年3月	Research Square	在日ベトナム人移住者の孤独とメンタルヘルス問題の関連性について調査を行い、連絡手段が無いことが孤独感の増加につながり、その結果メンタルヘルス不調を引き起こすことを明らかにした。全文12頁。掲載URL：https://www.researchsquare.com/article/rs-4010334/latest
7.A cross-sectional survey of material deprivation and suicide-related ideation among Vietnamese technical interns in Japan in 2021	共	2024年1月4日	Frontiers in Psychology	2021年にベトナム人技能実習生を対象に調査を行い、ベトナム人技能実習生にとって物質的な困窮が自殺念慮を誘発することを明らかにした。全文8頁。掲載URL：https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fpsyg.2023.1241837/full#ref39(査読あり)
8.Depression and anxiety symptoms among Vietnamese migrants in Japan during the COVID-19 pandemic.	共	2023年10月31日	Tropical medicine and health	COVID-19のパンデミック期において、在日ベトナム人移住者の不安症状が平時よりも高くなっていることを明らかにした。全文8頁。掲載URL：https://doi.org/10.1186/s41182-023-00542-8(査読あり)
9.ベトナム人技能実習生の物質的剥奪経験と自殺念慮との関係 2021年実施の横断調査より	共	2023年3月	日本衛生学雑誌 78巻 Suppl.	2021年にベトナム人技能実習生を対象にした調査で、物質的剥奪経験が自殺念慮と相関関係にあることを明らかにした。p, 228所収。（査読あり）
10.在日ベトナム人が紡ぐ神戸・長田の物語	単	2022年3月	川野英二編『阪神都市圏の研究』ナカニシヤ出版	ベトナム難民として来日したベトナム人が神戸市長田区の地場産業であるケミカルシューズ産業で工業労働に従事する中で、周囲の従業員との軋轢を乗り越えながら、共にケミカルシューズ産業の歴史を書きかえていることを論じた。pp, 347-397所収。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
11. ベトナムにおける高齢化とケア-ERIAレポートレビューを中心にー	共	2022年3月	グローバル・コミュニケーション研究 = Global communication studies 11	「ベトナムにおける高齢化と健康に関する縦断的研究2018年版」(Longitudinal Study of Ageing and Health in Vietnam)の調査結果を基に作成された東アジア・アセアン経済研究センター(Economic Research Institute for ASEAN and East Asia、以下ERIA)レポートの内容を概観し、その論点整理と考察を加えたレビュー論文。pp.211-235所収。
12. 神戸GCP オンラインコースの成果と課題：継続的なプログラム開発を目指して	単	2022年3月	大学教育研究 30	神戸大学における海外研修オンラインプログラムの成果と課題について分析を行い、オンラインプログラムの継続的な運用に必要な条件について提示した。pp.115-127所収。(査読あり)
13. カトリックが持つ異文化をつなぐ媒介力	単	2018年4月	明石書店	高橋典史、白波瀬達也、星野壮編『現代日本の宗教と多文化共生 移民と地域社会の関係性を探る』第4章。ベトナム人が多数集まるカトリック教会に着目し、日本人神父がベトナム人信者と日本人信者との間で媒介者としての役割を果たしており、そのことが教会内多文化共生の実現につながっていることを明らかにした。pp.91-109所収。
14. 「多文化共生」社会の実現に関する一考察ーカトリック教会に集まる信者を事例にー	単	2016年3月	風響社	白川千尋・石森大知・久保忠行編『多配列思考の人類学 差異と類似性を読み解く』第七章。カトリック教会に集まるベトナム人信者と日本人信者の宗教実践に着目し、エスニシティの枠を超えて信者同士が教会内の作業を協働することによって、相互間に存在する文化的差異に基づく軋轢を乗り越えていることを明らかにした。pp.61-69所収。
15. ベトナム国チャビン省カウガン県の明德儒教大道の宗教施設について：至善明寺・孔子聖殿の活動を事例に	単	2016年3月	華僑華人研究 / 日本華僑華人学会 編(13)	研究ノート特集 「ベトナム国チャビン省華人宗教施設調査報告」に収められた調査報告論文。2012年から2013年にかけてベトナム国チャビン省で実施した共同研究調査において、筆者が調査を実施した華人寺の歴史、儀礼の様子について明らかにした。pp.61-69所収。(査読あり)
16. A Case Study of Khong Tu Thanh Dien(Minh Duc Nho Giao Dai Dao)in Cau Ngang, Tra Vinh	単	2014年8月	『MIEU NGUOI HOA TAI TRA VINH』(チャビン省における華人寺), Tra Vinh University (チャビン大学)	ベトナム国メコンデルタ地方におけるチャビン省カウガン県における華人寺の孔子聖殿(明德儒教大道)の現況を明らかにし、宗教施設が民族的コミュニティの核となっていることを明らかにした。pp.46-55所収。
17. 神戸長田の記憶風景を描きなおす	共	2014年3月	『生存学』Vol.6、立命館大学生存学センター編、生活書院	在日ベトナム人が生活空間である神戸市長田区の風景に彼らの記憶にあるベトナムの風景を見出していることを指摘した。そのことは、移住に伴う生活の断絶を克服し、地域社会への定着を促す行為であることを明らかにした。pp.298-318所収。
18. 就労現場におけるベトナム難民の受け入れと町工場が果たした役割：兵庫県姫路市高木・神戸市長田を事例に	共	2014年3月	難民研究ジャーナル / 難民研究フォーラム 編 4	難民として来日した在日ベトナム人の就労実態について兵庫県内の二地域で調査を行いその調査結果をまとめた。pp.106-121所収。(査読あり)
19. 在日ベトナム人宗教施設が持つ社会的意味に関する一考察	単	2010年3月	『鶴山論叢』第10号鶴山論叢刊行会、神戸大学大学院国際文化学研究科	在日ベトナム人が集まるカトリック教会とベトナム仏教寺に着目し、二つの宗教施設の社会的意味役割について比較検討を行なった。カトリック教会では信者間の共生を重視しているのに対し、ベトナム仏教寺では地域社会との共生を重視していることを明らかにした。pp.41-56所収。
20. 在日ベトナム人研究に関する課題と展望	単	2010年3月	『神戸文化人類学研究』第3号、『神戸人類学研究』編事務局、神戸大学大学院国際文化学研究科文化人類学コース	これまでの在日ベトナム人研究を整理し、在日ベトナム人の生活実践を日本社会の文脈のみから理解することは、在日ベトナム人の「マイノリティ性」の固定化につながり、地域社会における日本人との共生を妨げる要素になることを指摘した。pp.55-56所収。(査読あり)
21. 「多文化共生」言説のエスニック・マイ	単	2009年3月	『文部科学省大学院教育プログラム	「多文化共生のまちづくり」を標榜する神戸市長田区に集住する在日ベトナム人コミュニティの実態調査を行ない、「多文化共生」言

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ノリティを巡る問題の所在について			「文化情報リテラシーを駆使する専門家の養成」平成20年度実績報告書』、神戸大学大学院国際文化学研究科	説に内在する日本人と在日ベトナム人の不均衡さについて論じた。pp. 110-130所収。（査読あり）
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 日本におけるベトナム移民の現在	単	2022年7月9日	日本国際文化学会	日本国際文化学会 第21回全国大会 シンポジウムA「移民と多文化共生」において、日本におけるベトナム移民の動向についてパネリスト講演を行った。
2. 湊川ジャンクション 神戸長田に共在する複数の移住者たちの記憶と記録	共	2017年6月	第28回日本移民学会年次大会、東洋大学	共同発表者：稲津秀樹、本岡拓哉、野上恵美。ラウンドテーブル「港湾都市と複数の移住者たち：長崎・神戸・横浜を事例として」において神戸市長田区の人の移動の歴史について、とりわけ私は在日ベトナム人の集住の歴史について報告を行った。
3. 宗教を基盤にした多文化共生への移住者のまなざし	単	2017年1月	「宗教と社会」学会公認プロジェクト「現代社会における移民と宗教」2016年度第2回研究会、東洋大学	「多文化共生」の担い手でもある移住者にとって、「多文化共生」言説は彼らのイメージを固定化するものであり、時にはマジョリティ側の期待を押しつけられる暴力性を伴う言説であることを、ベトナム人が多く集まるカトリック教会での出来事を事例について発表した。
4. 日本および神戸のベトナム難民の概要	単	2016年6月	第27回日本移民学会年次大会、阪南大学	ラウンドテーブル「神戸から考えるベトナム難民の過去・現在・未来」において、日本に居住するベトナム難民の居住地域の特徴や就労状況について発表した。
5. 日本におけるベトナム系移住者の社会関係とネットワーク カトリック教会とベトナム仏教寺を事例に		2013年10月	「宗教と社会」学会公認プロジェクト「現代社会における移民と宗教」2013年度第2回研究会、西成市民館	在日ベトナム人が集まるカトリック教会とベトナム仏教寺に着目し、2つの施設の社会的役割について比較検討を行なった。カトリック教会では、ベトナム人以外の信者との共生を重視しているのに対し、ベトナム寺院のベトナム人は地域社会との共生を重視していることについて発表した。
2. 学会発表				
1. 高齢者がニッチ（居場所）を発見し棲むということ ベトナム、ホーチミン市の宗教施設を事例に	共	2024年6月15日	日本文化人類学会	日本文化人類学会第58回研究大会における分科会「ディタッチメントとアタッチメント：東アジア、東南アジアの高齢者の居場所」（代表者：加藤敦典）において、土屋敦子と共同でベトナム、ホーチミン市の高齢者の居住状況について発表を行った。
2. ベトナムにおける「認知症」概念をめぐる文化的・社会的背景に関する一考察	単	2019年12月	第26回多文化間精神医学会学術総会、龍谷大学	共同研究者：三浦藍・瀧尻明子・磯部昌憲・平野裕子・植本雅治。急速な近代化に伴い医療化が拡大するベトナム社会において、高齢者「認知症」の認識に関する医療職と一般の人びとの間に存在する相違について、ならびにベトナム社会における高齢者のケアの望ましいあり方について発表した。本発表は科学研究費補助金 基盤研究(C)「認知症の認識とケアに関する研究—EPAで来日する看護師の教育と支援に向けて—」（課題番号：17K12410）(研究代表者：植本雅治)による研究成果の一部である。
3. 日本で暮らすベトナム出身者と精神障害	単	2019年11月	第26回多文化間精神医学会学術総会、龍谷大学	シンポジウム「日本に暮らす外国人の定住について医療の視点から再考する」において、在日ベトナム人精神障害者の置かれている状況について発表した。登壇者：阿部裕、野上恵美、鶴川晃、指定討論者：松葉祥一。
4. 多様な文化的背景を持つアソシエーションにおける意思決定の方法 在日ベトナム人支援を目的とするアソシエーションを事例に	単	2019年6月	日本文化人類学会第53回 研究大会、東北大学	分科会「非西欧諸国から／への人の移動と市民社会の越境的動態」において、私は「多文化共生」を理念に掲げる在日ベトナム人支援組織において、在日ベトナム人と日本人が意思決定を行う際、どのように合意形成を行い、団体としての統意思決定に至るかについて報告した。分科会代表：上杉妙子、発表者：石川真作、野上恵美、岡田浩樹、小川さやか、コメンテーター：田辺明生。
5. ベトナムの看護学生の認知症に関する認識	共	2017年7月	看護教育学会第27回学術大会、沖縄	発表者：瀧尻明子、三浦藍、野上恵美、磯部昌憲、中平みわ、吉田さとみ、植本雅治。日本とベトナムの看護学生を対象に認知症の認識

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
識調査(日越の看護大学生の認知症に関する認識調査 第1報)			コンベンションセンター	識に関するアンケート調査を実施したところ、認識の違いに有意な差が見られた。日本の場合、1年生から4年生の学生ほぼ全員が認知症を医療的措置が求められる症状として認識しているのに対し、ベトナムの場合、学年が上がるについて認知症に対して複数の認識が生じる結果となった。(ポスター発表)
6. 日本の看護学生の認知症に関する認識調査(日越の看護大学生の認知症に関する認識調査 第2報)	共	2017年7月	看護教育学会第27回学術大会、沖縄コンベンションセンター	発表者：三浦藍、瀧尻明子、野上恵美、磯部昌憲、中平みわ、吉田さとみ、植本雅治。日本とベトナムの看護学生を対象に認知症の認識に関するアンケート調査を実施したところ、認識の違いに有意な差が見られた。日本の場合、1年生から4年生の学生ほぼ全員が認知症を医療的措置が求められる症状として認識しているのに対し、ベトナムの場合、学年が上がるについて認知症に対して複数の認識が生じる結果となった。(ポスター発表)
7. "Refugee" to "Minority"- Ethnography on Works by Vietnamese Migrants Living in Japan	単	2017年5月	CASCA/IUAES2017, Ottawa University	パネルセッション：Migrantion and transnational dynamics of non-western civil societiesにおいて、難民として渡日したベトナム人の多くが就労しているケミカルシューズ工場は、工場労働者の生活文化とベトナム的な生活文化が接触する場であり、その結果、社会的・民族的マイノリティとしての「在日ベトナム人」像が生成されていることについて発表した。(博士論文の一部を発表。)
8. 「難民」から「マイノリティへ」ー神戸・長田のベトナム系移住者の労働をめぐる民族誌ー	単	2016年6月	日本文化人類学会第51回 研究大会、神戸大学	難民として渡日したベトナム人の多くが就労しているケミカルシューズ工場は、工場労働者の生活文化とベトナム的な生活文化が接触する場であり、その結果、社会的・民族マイノリティとしての「在日ベトナム人」像が生成されていることについて発表した。(博士論文の一部を発表)
9. カウガン県の明德儒教大道・至善明寺・孔子聖殿の活動	単	2015年11月	2015年度日本華僑華人学会研究大会、京都大学	大会企画分科会「ベトナム国チャビン省華人宗教施設調査報告」において、チャビン省カウガン県にある明德儒教大道を基盤とする宗教施設「至善明寺・孔子聖殿」について発表した。分科会代表：芹澤知広、発表者：野上恵美、土屋敦子
10. 「復興都市」を問いなおす『阪神・淡路大震災』の 長田から	共	2015年6月	カルチュラル・タイフーン2015(カルチュラル・スタディーズ学会)、リ	共同発表者：稲津秀樹、本岡拓哉、野上恵美、中西雄二。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。阪神・淡路大震災の復興過程で「失われた」ものとしての生活風景は、人びとの心に刻まれるだけでなく、新たな移住者によって再構築されていることについて発表した。発表の中で、私は在日ベトナム人について言及した。
11. まちかどの記憶とその記録へー共在の場としてのくながた>のフィールドマップを描くー	共	2011年7月	パティ大阪カルチュラル・タイフーン2011(カルチュラル・スタディーズ学会)、海外移住と文化の交流センター	共同発表者：稲津秀樹、本岡拓哉、野上恵美、中西雄二。概要は、野上が発表した内容についてのみ記載した。【概要】在日ベトナム人が彼らの生活空間である神戸市長田区の風景に彼らの記憶にあるベトナムの風景を見出すことにより、移住による生活空間の断絶を克服しようとしていることについて発表した。
12. 難民からマイノリティへー神戸市長田区のケミカルシューズ工場の現場からー	単	2009年7月	第9回日本国際文化学会全国大会、東海大学札幌キャンパス	難民として渡日したベトナム人の多くが就労しているケミカルシューズ工場は、工場労働者の生活文化とベトナム的な生活文化が接触する場であることについて発表した。
13. 「多文化共生」言説のエスニック・マイノリティを巡る問題の所在についてー在日ベトナム人を事例にー	単	2008年7月	第8回日本国際文化学会全国大会、佐賀大学	神戸市長田区に集住する在日ベトナム人コミュニティの実態を明らかにしたうえで、「多文化共生」言説に内在するマジョリティとマイノリティの間に存在する不均衡について発表した。
3. 総説				
1. 神戸のカトリックコミュニティ	単	2023年2月25日	明石書店	岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための63章【第3版】』において、コラム「神戸のカトリックコミュニティ」(pp.233-235)を執筆した。
2. コラム 技能実習制度における「介護」と「農業」	単	2020年12月	神戸新聞社	竹沢泰子・樋口大祐・兵庫県国際交流協会編『百花繚乱 ひょうごの多文化共生150年のあゆみ』、pp182-183所収。兵庫県内における介護実習生と農業実習生の現状について解説した。
3. 技能実習生	単	2020年12月	神戸新聞社	竹沢泰子・樋口大祐・兵庫県国際交流協会編『百花繚乱 ひょうごの多文化共生150年のあゆみ』、pp178-181所収。近年、急増してい

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
4. コラム インドシナ難民	単	2020年12月	神戸新聞社	るベトナム人技能実習生の現状と日本における技能実習制度の成り立ちについて解説した。
5. ベトナムからの人びと	単	2020年12月	神戸新聞社	竹沢泰子・樋口大祐・兵庫県国際交流協会編『百花繚乱 ひょうごの多文化共生150年のあゆみ』、pp140-141所収。難民として来日した在日ベトナム人の歴史的背景と現在の状況について解説した。
6. 在日ベトナム人コミュニティにおける母語教室のあり方：在日ベトナム人2世の言語状況からみる「葛藤」を巡る問題の所在について	単	2019年3月	三元社	竹沢泰子・樋口大祐・兵庫県国際交流協会編『百花繚乱 ひょうごの多文化共生150年のあゆみ』、pp128-133所収。在日ベトナム人の歴史的背景と定住過程について解説した。
7. ベトナム難民一世・二世たちの震災の記憶—阪神・淡路大震災から20年を迎えて	共	2016年3月	ベトナム夢KOBÉ	『ことばと社会』編集委員会編『ことばと社会』20号東京 ことばと都市の総合的理解へ、連載報告「多言語ニッポン」に掲載。pp.193-201所収。神戸市長田区に居住する在日ベトナム人2世の若者が、ベトナム語を十分できないことにより、自分のことを「中途半端」と認識する背景には、「〇〇人だから〇〇語ができる」という前提が日本社会に存在していることを批判的に論じた。
8. 外国人支援の現場にいつづける意味	単	2016年3月	特定非営利活動法人 移住者と連帯する全国ネットワーク	2015年度公益信託神戸まちづくり六甲アイランド基金助成事業報告書。阪神淡路・大震災から20年が経過し、震災の記憶が風化しつつあることを危惧し、難民として来日した在日ベトナム人がどのように生活再建を行ったのか聞き取りを実施し記録化した。私は総括責任者として報告書の作成に携わった。翌年度、ベトナム語版を作成した。調査・執筆協力者：瀬戸徐映里奈、久保忠行、白波瀬達也、他4名。
9. ベトナム寺の建—ベトナム人コミュニティの現在	単	2015年8月	国立民族学博物館	『Mネット Migrants Network 移住労働者と連帯する全国ネットワーク情報誌』No.188、pp.18-19所収。2005年から支援者として関わっている神戸市長田区に拠点を置く在日ベトナム人支援団体の活動をとおり、被支援者と支援者という関係性の固定化が、「多文化共生」社会の実現を困難にしていることを指摘した。
10. 異聞逸聞—海外で起業するベトナムの若者たち	単	2014年11月	国立民族学博物館	『月刊みんぱく』8月号、p.7所収。在日ベトナム人への聞き取り調査によって得られたデータに基づき、神戸市長田区にあるベトナム寺院の建—立過程について記述した。
11. くつ／支える	単	2014年3月	共在の場を考える研究会編（編集責任：本岡拓哉・稲津秀樹・中西雄二・野上恵美）	『月刊みんぱく』11月号、p.21所収。【概要】日本に移住したベトナム人の若者が起業して、グローバルに活躍する様子について記述した。
12. インドシナ定住難民の現在	単	2013年3月	特定非営利活動法人 移住者と連帯する全国ネットワーク	稲津秀樹、本岡拓哉、野上恵美、中西雄二編『まちかどの記憶とその記録のために』Vol.2所収、pp.51-56。神戸市長田区に居住する在日ベトナム人の多くが従事しているケミカルシューズ産業の社会的構造について記述した。
13. ベトナム人が集うカトリック教会から「多文化共生」を考える	単	2012年3月	特定非営利活動法人 移住者と連帯する全国ネットワーク	『日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書2012』、pp.30-31所収。インドシナ難民として渡日したベトナム人の概略および現在の状況について記述した。
14. 長田のベトナム系出身者	単	2012年3月	共在の場を考える研究会編（編集責任：稲津秀樹・中西雄二・本岡拓哉・野上恵美）	『MネットMigrants 移住労働者と連帯する全国ネットワーク情報誌』No.144、pp.14-16所収。多くのベトナム人信者を抱えるカトリック教会におけるベトナム人／日本人信者同士の「共生」に向けた取り組みとして、ベトナム人信者と日本人信者が妥協点を見い出しながら協力して行なうイベント「旧正月の集い」の様子について記述した。
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 吉富志津代監修 特定非営利活動法人 多言語センター	単	2024年3月31日	『社会福祉学研究』第1号、武庫川女子大学社会福祉	『社会福祉学研究』第1号において、吉富志津代監修 特定非営利活動法人 多言語センターFACIL編『ソーシャルビジネスで拓く多文化社会 多言語センターFACIL・24年の挑戦』明石書店、2023、256頁の書

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
FACIL編『ソーシャルビジネスで拓く多文化社会 多言語センサーFACIL・24年の挑戦』明石書店, 2023, 256頁			学研究会2023	評論文を執筆した。pp. 45-47所収。
2. 日本定住を指向する在日ベトナム人のエスノグラフィー	単	2024年3月31日	年報Promis Vol.2 (2023)No.2 (別冊)	年報Promis Vol.2(2023)No.2 (別冊) に、パネリストとして加わったシンポジウム「日本を選ぶ(残る)理由、日本を選ばない(去る)理由」の報告書が刊行された。野上該当頁pp.19-23。ISSN (オンライン) /2758-6634
3. まちかどの記憶とその記録のために一神戸長田から／ヘー vol.3	共	2024年3月31日	共在の場を考える研究会編	自主研究会「共在の場を考える研究会」(コアメンバー: 本岡拓哉、稲津秀樹、中西雄二、野上恵美)で、研究報告書3号の編集・発行に携わった。ISBN/978-4-9906432-2-5
4. 日本定住を指向する在日ベトナム人のエスノグラフィー	単	2023年11月26日	人間文化機構グローバル地域研究事業 東ユーラシア研究プロジェクト 神戸大学国際文化研究推進インスティテュート拠点(EES神戸)	EES神戸「人口減社会における越境・家族・国家」シンポジウム日本を選ぶ(残る)理由 日本を選ばない(去る)理由において、パネリストのひとりとして在日ベトナム人の家族の状況について発表を行った。
5. 日本におけるベトナム移民の現在	単	2023年3月31日	風行社	インターカルチュラル21 (日本国際文化学会年報2023) pp. 6-38所収。特集1 [第21回全国大会公開シンポジウム]シンポジウムA 国際文化学の今日ー移民と多文化共生の一部 として掲載。ISBN/978-4-86258-153-2
6. 在日ベトナム人高齢者の現状: 神戸のベトナム人コミュニティを事例に	共	2022年12月17日	日本文化人類学会植松東アジア研究助成金	ワークショップ「東アジアと東南アジアにおける高齢者の居住形態の選択」において、土屋敦子と共同で在日ベトナム人高齢者の生活状況について報告を行った。
7. 第3回「感染症の大規模流行と食生活」研究会	共	2022年6月	基盤研究(C)「感染症流行へのレジリエンス: アフリカ社会のフードシステムをめぐる協働のモデル構築」(課題番号21K12443) 研究代表者: 中川千草	カメルーンを中心としたアフリカ内陸における、水産資源の管理について、人類学的な観点から研究されている稲井啓之さんをスピーカーにお迎えし、感染症の流行がフードシステムや日常生活に与える影響についての報告およびディスカッションを行った。(遠隔)
8. 第2回研究会 「感染症の大規模流行と食生活」	共	2022年2月	基盤研究(C)「感染症流行へのレジリエンス: アフリカ社会のフードシステムをめぐる協働のモデル構築」(課題番号21K12443) 研究代表者: 中川千草	金子あき子氏(龍谷大学)、および本研究代表者中川千草(龍谷大学農学部)をスピーカーとし、それぞれの研究活動において、これまで収集・蓄積してきた情報や知見、経験を持ち寄り、感染症の流行がフードシステムや日常生活に与える影響についての報告およびディスカッションを行った。(遠隔)
9. 第1回研究会 「感染症の大規模流行と食生活」	共	2021年11月	基盤研究(C)「感染症流行へのレジリエンス: アフリカ社会のフードシステムをめぐる協働のモデル構築」(課題番号21K12443) 研究代表者: 中川千草	近畿大学の瀬戸徐映里奈氏、および神戸大学の野上恵美、本研究代表者中川千草(龍谷大学農学部)をスピーカーとし、それぞれの研究活動において、これまで収集・蓄積してきた情報や知見、経験を持ち寄り、感染症の流行がフードシステムや日常生活に与える影響についての報告およびディスカッションを行った。(遠隔)
10. 研究会でのコメンテーター	単	2021年2月	「亡国の越境者」研究会主催・神戸	小野亮介他3名『「亡国の越境者」の100年』ネットワークが紡ぐユーラシア近現代史(風響社)所収、「第4章 ベトナム難民の『故郷

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
11. Social Support for Vietnamese Living in Japan under COVID-19	共	2020年11月	華僑華人研究会共催「『亡国の越境者』の100年 ネットワークが紡ぐユーラシア近現代史合評会」 Ritsumeikan University, Graduate School of Human Science and University of Oklahoma, Anne and Henry Zarrow School of Social Work “Mini-Symposium : Disaster, Trauma & Human services” (遠隔)	の食』にみる社会関係と自然利用 地方都市・姫路での暮らしから」(執筆者・瀬戸徐映里奈)についてコメンテーターとして発表した。在日ベトナム人の「食」をめぐる行為を通して、彼／彼女らにとって「故郷」とはいかなるものであるかを、記憶に関する議論を援用しながら言及した。 共同発表者：Duong Ngoc Diep、野上恵美、林貴哉。コロナ禍において在日ベトナム人支援組織の支援のあり方が大きく変化していることを指摘した上で、具体的な支援方法(インターネットメディアを用いたベトナム語による情報発信活動)について報告した。
12. 多文化社会と防災 多様な主体によるグッド・プラクティス	共	2017年11月	世界防災フォーラム/防災ダボス会議、仙台国際センター	テクニカルセッション「多文化社会と防災 多様な主体によるグッドプラクティス」において、阪神・淡路大震災、関東・東北豪雨、熊本地震での外国人支援について報告した。私は阪神・淡路大震災時における在日ベトナム人支援について報告した。
13. 「難民」から「マイノリティへ」—神戸・長田のベトナム系移住者の労働をめぐる民族誌—	単	2016年3月	日本文化人類学会近畿地区研究懇談会、神戸大学	博士論文の構成を説明したうえで、難民として渡日したベトナム人の多くが就労しているケミカルシューズ工場は、工場労働者の生活文化とベトナム的な生活文化が接触する場であり、その結果、社会的・民族マイノリティとしての「在日ベトナム人」像が生成されていることについて発表した。
14. A Case Study of Khong Tu Thanh Dien (Minh Duc Nho Giao Dai Dao) in Cau Ngang Contry, Tra Vinh Province, Vietnam	単	2015年8月	Hoi Thao Khoa Hoc "MIEU NGUOI HOA TAITRA VINH", Tra Vinh University	ベトナム国チャビン省のチャビン大学で開催された科学セミナー「チャビン省の華人の廟」において、チャビン省カウガン県にある華人寺のひとつである孔子聖殿(明德儒教大道)が、その地域における華人コミュニティの中核として様々な社会活動を行なっていることについて発表した。
15. A Case Study of Chua Chi Thien Minh in Cau Ngang	単	2014年7月	Science Forum "Temples of Chinese People in Tra Vinh", Tra Vinh University	ベトナム国チャビン省のチャビン大学で開催された科学フォーラム「チャビン省における華人寺」において、チャビン省カウガン県にある華人寺を中心とした華人コミュニティの動態について調査報告を行なった。
16. ベトナム系移住者と多文化共生—神戸・長田のカトリック教会を事例に—	単	2014年6月	移民学会ワークショップ移民と向き合う宗教—「多文化共生」を实践する信仰者たち、東洋大学	カトリック教会に集まるベトナム人の宗教実践に着目し、ベトナム人信者が日本人信者と共に教会内の作業を協働することによって、相互に存在する文化的差異に基づく軋轢を乗り越えようとしていることについて発表した。
17. 就労現場におけるベトナム難民の受け入れと町工場が果たした役割に関する一考察 —兵庫県姫路市・神戸長田を事例に—	共	2014年6月	公開シンポジウム「アジア(フィリピン・韓国)における難民法制度の動きと日本の今後」真如苑・友心院	第1回「若手難民研究者奨励賞」受賞者による研究成果報告。共同発表者：瀬戸徐映里奈、野上恵美。ベトナム難民の定住過程について、ベトナム難民が就労する町工場を足がかりに調査を行ない、ベトナム難民が地域住民として定着する際に、職場の人間関係が大きな役割を果たしていることについて発表した。
6. 研究費の取得状況				
1. ベトナムにおける高齢者ケア・レジームに関する総合的地域	共	2023年4月1日～現在	日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)	研究分担者(研究代表者：加藤敦典)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
研究				
2. 東アジアの高齢者の住まいと居場所をめぐるアタッチメントとディタッチメントの研究	共	2021年6月1日～2023年3月31日	植松東アジア研究基金	研究分担者(研究代表者：加藤敦典)
3. 現代ベトナムにおける認知症高齢者をめぐる家族規範と生活実践に関する研究	単	2021年4月1日～現在	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究	研究代表者
4. 東南アジア貧困地域の妊娠期鉄欠乏性貧血予防：地域看護職と協働した持続的支援モデル	共	2019年4月1日～2023年3月31日	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	研究分担者(研究代表者：山下正)
5. 認知症の認識とケアに関する研究—EPAで来日する看護師の教育と支援に向けて—	共	2017年4月1日～2022年3月31日	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	研究分担者(研究代表者：植本雅治)
6. 在日外国人の子どもたちを取り巻く環境とメンタルヘルス	共	2015年4月1日～2019年3月31日	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	研究分担者(研究代表者：瀧尻明子)
7. 第1回若手難民研究者奨励賞	共	2013年7月1日～2014年3月31日	難民研究フォーラム	共同研究者(研究代表者：瀬戸徐映里奈)
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2022年4月1日～現在		日本国際文化学会学会員		
2. 2019年4月1日～現在		多文化間精神医学会学会員		
3. 2015年4月1日～現在		日本華僑華人学会学会員		
4. 2014年6月1日～現在		特定非営利活動法人 たかとりコミュニティセンター理事		
5. 2008年4月1日～現在		日本文化人類学会学会員		